

平成26年度第1回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会の概要

- 日 時： 平成26年4月22日（火） 午前10時30分～12時00分
- 場 所： 京都市立病院 5階会議室
- 出席者： 理事長 内藤 和世
理 事 森本 泰介, 大森 憲,
位高 光司, 山本 壯太, 能見 伸八郎, 木村 晴恵
監 事 長谷川 佐喜男

1 開会

2 議事

- (1) 地方独立行政法人京都市立病院機構事務分掌規程の改正（案）について

3 報告

- (1) 京都市立病院における損害賠償請求事件の和解締結について

(2) 経営状況月次（3月分）及び第4四半期報告

- 2病院を持つ本機構は、医療従事者の教育の場としては有用な環境にあると思われるが、他の自治体で、本機構のように都市型急性期病院及びへき地病院をともに運営している事例はあるのか。
→・ 県立ではあるが、政令指定都市では稀である。将来の医療を担う医師、看護師等の医療者の人材育成の場として大いに活用していきたい。
- 市内の介護事業者には実績が低下しているところもある中、京北では実績を維持できており立派だと思う。京北地域の住民は、可能であれば京北で住み続けたいと望んでおられ、当該地域の住民の健康を支える砦として京北病院が担う役割は大きい。
→・ 対象人口が減少する中で健闘した結果、市内への患者の流出は一定食い止められたのではないかと考えている。医療とミックスした介護を提供できることは本来望ましいことであり、介護を担う京都市の公的医療機関である本機構は、本当の意味で医療と介護のケアミックスを目指すことができる。
- 1～3月の病床利用率が高いが、特別な要因があるのか。
→・ 一般的に上半期は低くなる。気温の低くなる10月以降下半期にかけて徐々に利用率が上昇する傾向を示す。

(3) 平成25年度外来患者満足度調査結果について

- 待ち時間について、診療科ごとに差異はあるのか。待ち時間の具体的な目標はどの程度か。
→・ 他病院と同様、整形外科、外科、耳鼻咽喉科については待ち時間が長い傾向にある。再診患者の完全予約制を実現することで、待ち時間の短縮を目指したい。

- 予約があっても、緊急を要する患者や、長時間の診察を要する患者が出てくれば、どうしても遅れが生じてしまう。予約枠に大幅な余裕を持たせればよいのかもしれないが、それでは診察できる患者数が限定され、外来ニーズに応えられないことになる。外来運営は難しい。
 - ・ 予約患者の待ち時間は30分が限度。今後体制を整えていく必要がある。
- アンケートには自由記載があると思うが、そこで寄せられた声についても真摯に受け止め、内容を具体的に検討する必要がある。
 - ・ アンケートの自由意見や病院に設置しているご意見箱に寄せられるご意見については、すべて院内設置のサービス向上委員会において取り上げ、改善点等について協議を行っている。
- 市立病院の受診理由に対する最も多い回答として「以前から受診しているから」という項目があるが、以前から受診している個々の理由を把握したほうが良い。
 - ・ 今後、設問形式も含めて検討する。

(4) 次期中期目標及び中期計画策定スケジュールについて

- 市立病院の意義及び現在の社会情勢を踏まえて、市民のための病院づくりを追求していただきたい。
- 京北病院を含めて、全国の病院のモデルケースとなることを目指していただきたい。
 - ・ 加速度的に進む高齢化や人口減少を踏まえて、市民のために提供すべきサービスについて見極めていきたい。

4 閉会